

一般演題8 O8-02

当院で突発性難聴に対し他院の耳鼻咽喉科と連携を取り治療改善した症例

○小栗隆良

医療法人 德洲会 成田富里徳洲会病院 臨床工学科

当院の耳鼻咽喉科は2022年より診療を開始。通院による内服薬治療のみでHBOは行なっていませんでした。今回、他院の耳鼻咽喉科と連携を取ることによりHBOと点滴治療との併用で治療改善を検討しました。対象期間は2024年1月から2025年1月までに突発性難聴に対して施行した36症例とし他院からの紹介18症例と当院の外来耳鼻咽喉科を受診した18症例としました。対象比較にはA群は他院紹介から1週間以内で治療開始。B群は他院紹介から1週間以上経過してから治療開始。C群は非紹介から1週間以内で治療開始。D群は非紹介から1週間以上経過して治療開始とされています。改善効果の指標には標準純音聽力検査:オージオグラムを活用し、聴力レベルが正常~軽度にまで

回復された患者様を効果ありとしています。結果です。A群では対象症例は10症例。重度レベル、高度レベルの症例が正常、軽度レベルまで改善効果を認めました。B群では対象症例は8症例。高度レベル、中等度レベルの症例が正常、軽度レベルまで改善効果が認めました。C群では対象症例は12症例。中等度レベルの症例が正常、軽度レベルまで改善効果が認められるも重度、高度レベルの症例にはあまり改善効果が認められませんでした。最後にD群では対象症例は6症例です。重度、高度、中等度レベルの全ての症例に対し正常、軽度レベルまで改善効果が認められませんでした。突発性難聴は発症早期に入院治療を開始することにより改善効果が大きく左右されます。症状が残り通院治療を経て最終的には補聴器装着という選択が上がります。他院の耳鼻咽喉科と連携を取ることによって改善効果と今後の生活習慣が大きく左右されると考えられます。今回は耳鼻咽喉科との連携報告ですが、今後は連携強化を図るにあたり、他分野・近隣病院との連携を実施していく、HBOの有効性を検証していき検討を重ねていきたいと思います。

